



【あらたな試み！】

お寺のお役を担っていただいている方々に毎月お届けする光西寺からのおたよりです！

真宗大谷派【東本願寺】光西寺 発行

雲仙市愛野町甲 272

☎ 0957-36-0103

「家族葬」という言葉

お盆前に高校時代の同級生が亡くなりました。唐突なたよりで、とても驚きました。5月に坊守と三人で食事をして、その後、何度かお寺に尋ねてきてくれた時は、いつも通りの彼でした。

残念なことに、彼が亡くなったことは新聞に掲載もされず、近親者だけでの「家族葬」、しかも、宗教者（僧侶）によって執行されない「お別れ会」というものでした。僧侶である自分が何もすることができないもどかしさを感じながら、お盆のあわただしさとともに時間だけが過ぎていきました。

「家族葬」という言葉が聞かれるようになって久しい。家族の者がきちんとお見送りをします、という言葉のニュアンスは心地よいものがある。しかし、「それ以外の者はお参りしていただかなくても結構です」という構図が見えてしまう。都会ではすでにそうになっているようです。

家族以外の者も、職場の人、隣近所の人たちも亡くなった人にきちんとお別れをしないといけないと思います。また、親しい仲間の家族が亡くなったと聞けば、何か手伝うことはないか、せめてお悔やみの言葉をかけたいと思うのが人の情というものではないでしょうか？

「家族葬」という言葉がわたしはきらいです。

宗祖親鸞聖人御命日定例 ごあんない

2019年8月28日（水）午前9時30分から12時まで

夜 8時30分から9時30分まで

9月10日（火）午前9時30分から「おみがき」です。

秋のお寺まいりシーズンがはじまります。よろしく願います。

おてらまいりはココロのストレッチ!